

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
 発行人 角田 巧
 〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
 E-mail: tonekyou@pref.gunma.lg.jp

児童生徒が「～する」授業の実現に向けて 「教師の役割」再点検！ ～学習のゴールを共有し、学び方を自ら選択できる環境を整える～

群馬県教育ビジョン2年目を迎え、エージェンシーを発揮する「自律した学習者」を育成するために、各学校では児童生徒が「～する」授業を目指し、教科の特性や発達段階を踏まえながら実践に取り組んでいただいています。そのような中、『環境の構成を工夫する＜伴走者としての教師＞の姿がイメージできずに、「～させる」授業になってしまう。』という声も聞かれます。そこで、利根教育事務所では、各学校で実施した学校訪問Aを振り返り、学習過程における環境の構成の工夫例をチェックポイントにしましたので、参考にしてください。

主体的・対話的で深い学び（能動的で他者と協働した学び）

学習過程（主な学習活動）

環境の構成＜伴走者としての教師＞

1. 本時のめあてをつかむ

○課題に対して、必要感や切実感をもつ

- 「学ぶ必要感や切実感」を児童生徒が表出する場面を設定する
 (例) 実物、動画、資料、前時の振り返り、学習計画等を活用する
 - 単元全体と本時のゴールを児童生徒と共有する場面を設定する
 (例) 自分事となる問いを設定し、課題を解決した姿について、児童生徒と確認する
- めあてを「なぜ（どうして、どのように）～か」とすると自分事となり学ぶ意欲が高まります。

○解決方法やゴールへの見通しをもつ

・自分の予想と、その根拠や理由を基に、
 学び方を決める

- 児童生徒が学習形態や解決方法を主体的に選べるように環境を整える
 (例) 必要に応じて複数の解決方法を例示する

課題解決への見通しがもてれば、児童生徒は自ら動き出します。
 学び方を**自己決定**できるように支援しましょう。

2. 課題を個人で考える

・自分の考えの根拠や方法を整理したり、
 修正したりする

- 探究活動を支え、必要に応じて新たな視点や問いを準備する

新たな視点をもてるように「その現象は、他の場所でも起きているかな？」「別の立場の人だったら、どう考えるだろう？」「時間が経つと、どう変わると思う？」など問いかけられるとよいです。

思考が深まるように「どういう意味だと思う？」「その言葉、どこで見た？」「どうしてそう考えたの？」「他の方法ではどうなるかな？」など問い返しましょう。

- 思考を助ける手立て(思考ツールやICT)や場を準備する

必要に応じて、個別と協働の場を往還できるとよいです。

3. グループや全体で話し合い、 新たな考えをもつ＜対話・交流＞

・友達の考えと自分の考えを比較したり関連付けたりして、よりよい考えを見いだす

- 必要に応じて、学級全体で意見交流する場面を設定する

対話・交流では、次のような視点で問いかけて思考を促しましょう。
 つなぐ：「今の意見、前の話とどう関係している？」
 比較する：「どちらの考えに共感できる？その理由は？」
 深める：「もっと、その説明詳しく言える？」
 広げる：「他にもどんな見方があるかな？」等

- 思考を再構築(試行錯誤)する時間を確保する

4. 本時のまとめ、振り返りをする

- まとめ・振り返りとして「何を、どのように、もっと知りたい」等の視点から自分の言葉で表現する場面を設定する

まとめは、学習内容(板書)をもとに、自分の言葉で簡潔に表現します。
 振り返りは、何をどのように学んだのかを表現する中で、自己の学びを自覚するとともに、次時に生かせる気付きに導くことが大切です。振り返りは次時につながっていると考えましょう。

授業中、児童生徒にどこまで任せ、いつまで待てばよいかは、先生方の児童生徒の姿の見取りと**深い教材研究**で明らかになります。あなたにとって**＜伴走者としての教師＞**は、どのような姿ですか？理想の姿を、校内で話題にしてみてください。

※深い教材研究とは、「学習指導要領を基に全ての児童生徒に育みたい資質・能力を定める」、「単元を通した児童生徒の追究意識(思考の流れ)を多様に想定する」、「児童生徒の学習状況や願い等の包括的・多面的な実態把握に基づき、一人一人の児童生徒に合わせて支援の方法を検討する」等を意識して授業づくり、単元づくりをすることです。